

## ※ 海外ニュース ※

英国 2025年5月1日 Highwaysindustry.com

### ■ ウィンザー・メイデンヘッドが1億1,480万ポンドの道路整備契約の入札を実施

Windsor and Maidenhead tenders £114.8m highways maintenance contract

ウィンザー・メイデンヘッド王立特別区は、最大見積額1億1,480万ポンドの道路整備・資本工事契約への入札を募っている。2026年4月から2033年3月まで7年間継続し2040年3月まで延長しうるこの契約は、地域網のさまざまな要素の中でもとりわけ道路網の375m、歩道の497m、300基超の橋梁構造物、26,000カ所の道路排水溝の整備および修理に関連するものとなる。入札書類において同区は、道路網は「地域経済・国家経済双方をサポートする重要な地域財産であり、われわれの区の特色や環境に寄与するもの」であると述べている。

米国 2025年5月2日 Futuretransport-News

### ■ Qフリー社が自社のキネティック・モビリティー高度交通管理システムを展開すべく大型通行料徴収契約を獲得

Q-Free Secures Major Tolling Contracts To Deploy Its Kinetic Mobility Advanced Traffic Management System

モビリティーソリューションにおける世界的リーダーであるQフリー社は、キネティック・モビリティー高度交通管理システム(ATMS)を展開すべく有料道路事業者らとともに3つの大型契約を獲得したと発表しているが、これは同ソリューションの米国通行料徴収市場への参入を示唆している。キネティック・モビリティーは、あらゆる高度道路交通システムを高速道路、有料道路、幹線道路における単一の意思決定ダッシュボードに統合する初の拡張可能ATMSプラットフォームであり、間に合わせのソリューションの必要性をなくしている。

米国 2025年5月5日 Roads&Bridges

### ■ ユタ州の交通局が車線区分線の視認性を高めるため移動式技術を利用

UDOT Uses Mobile Technology to Improve Lane Marking Visibility

ユタ州の交通局は、安全性を高め、コストを削減し、車線区分線の視認性を高めるため、州間高速道路15号線沿いで新たな移動式再帰反射技術を展開している。この技術は移動する車両に取り付けが可能で、これにより同交通局は従来の作業区間を設けることなく車線視認性を評価できるようになる。手持ち式の再帰反射計を使用する路上の作業員の代わりに、移動式装置が湿った道路状態をシミュレートする散水車の後ろを走行しデータを収集する。路上の縞模様の線に埋め込んだガラス玉やマイクロプリズムで再帰反射性を得られ、これにより光を直接ドライバーに跳ね返す仕組みである。

デンマーク 2025年5月5日 Global Highways

### ■ デンマーク道路局が1,875万ユーロのLEDアップデートを完了

Vejdirektoratet finishes €18.75 million LED update

デンマーク道路局は、同局で最大規模の照明プロジェクト、すなわち国の道路網のランプ23,000基の最新LEDランプへの置き換えを完了した。また同局は必要性がないとみなされた場合には、高速道路区間で照明を撤去したと述べている。デンマークの運輸大臣トマス・ダニエルセン氏によると、全体としてこのプロジェクトにより道路照明のエネルギー消費が約65%減少したとしている。合計投資額は約1,875万ユーロ、ただしこの運用コストの削減は「投資がたった6年間で回収されると予想されること」を意味している。

米国 2025年5月6日 Roads&Bridges

### ■ 委員会が道路信託基金に対する長期的解決策を検討

Committee Weighs Long-Term Fixes for Highway Trust Fund

最近の米下院輸送インフラ委員会のヒアリングにおいて、道路信託基金が財政上持続可能となるよう解決策が探られている。現在の歳入では、長期的ニーズに応えられていない状況が続いている。同基金は1956年に設立され、道路勘定と公共交通勘定を通して建設と整備に資金を提供している。州政府および地方自治体が道路投資の約80%を負担している一方で、連邦政府は2022年に520億ドルを提供している（このほとんど全てが資本計

画に対するものである）。委員長のサム・グレイブス氏は、同基金は2008年から支払い不能に直面しており、インフラ投資・雇用法が問題を悪化させていると批判している。

ドイツ 2025年5月6日 BMDV

### ■ 連邦長距離道路建設におけるデジタル化のためのマスタープラン

Masterplan für die Digitalisierung im Bundesfernstraßenbau

ドイツ連邦交通省（BMV）は「連邦長距離道路BIMマスタープラン」の推進によりデジタル化を加速させている。同プランは連邦長距離道路の技術管理においてBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）を統一標準とするものである。デジタル建築モデルを基に、橋梁や道路など建築物の全ライフサイクルにわたって情報・データを収集・管理し、関係者間でやり取りして作業上の連携を強化する。これにより、①経済性とコスト安定性向上、②計画どおりの工事進捗、③持続可能性強化、④計画・認可プロセスにおける人工知能活用推進を目指す。BIM導入は2021年以降3フェーズに分けて進められており、2026年には各州での連邦からの委任業務やアウトバーン社等で標準プロセスとなる予定である。

アルゼンチン 2025年5月6日 construction Technology

### ■ イタリアの請負業者が10年に及ぶ紛争の末、アルゼンチンから1億4,700万ドルを受け取る予定

Italian contractor in line for \$14.7m payout from Argentina after decade-long dispute

裁判所はアルゼンチンに対し、道路計画を巡る10年に及ぶ紛争の末、イタリアの請負業者ウイビルド社に1億4,700万ドルを支払うよう命じた。当該道路は2004年に完成し、同社が有料道路を運営する利権は2014年に終了した。同社は元々、海外投資の誘致を狙ったアルゼンチンの民営化改革の一環として1998年に調印された道路の25カ年利権契約を有していた。しかし同社によると、この計画は支払いの遅れ、米州開発銀行との融資契約の破綻、アルゼンチンの経済危機時の2002年の緊急法導入を含む重要な課題に直面していた。

フランス 2025年5月7日 Le Figaro

### ■ 高速道路A31bis：フランス政府は、この建設計画に「完全に参画」した状態である

Autoroute A31bis : l'Etat se dit « pleinement engagé » dans ce projet

2025年4月に北モゼルの6つの共同体の首長が、共同声明に署名し、「モゼル北部とグランテスト地域圏のための基本」計画に対する支持を再確認する意思を表明した。5月7日にモゼル県側は行政府の立場として、フランスとルクセンブルクの間を走る高速道路A31bisの建設と運営に「完全に参画する意思がある」ことを表明した。現在、ルクセンブルク側の国境には10万人の住民が暮らしていて、今回の高速道路により交通の利便性が高まり、渋滞が緩和される見通しである。

英国 2025年5月13日 Highways Magazine

### ■ National Highwaysがバーミンガム近くのM5・M6号線で消灯を試験

National Highways trialling M5 and M6 blackout near Birmingham

National Highwaysは消灯試験を実施しており、この試験が成功すれば恒久的に照明を撤去することを検討している。試験は2027年までに道路網照明の70%をより効率的なLED電球に切り換える計画と並行して実施されている。またこの試験により炭素排出目標を達成し、税金を他領域へ確保する目的として、National Highwaysが照明の撤去が検討されている高速道路を評価する時間が与えられることとなっている。National Highwaysは照明撤去により、安全性に大きな影響があるかどうかを確かめるため、過去5年間の夜間死傷者数に対し評価を行うことになる。

オランダ 2025年5月14日 EL PAÍS

### ■ フェロビアル社は、アメリカで（再び）偉大な存在となる

Ferrovial se hace grande en América (otra vez)

元々スペインの大手建設会社であったフェロビアル社が、オランダに本社を移転したのは、資金が得やすい環境を得るためにあった。法的な安定を求めるのが別の理由であったが、そのことは、スペイン政府を困惑させた経緯がある。現在、同社が最大の収益を上げている事業が、米国内での高速道路建設事業とJFK空港の第一ター

ミナル建設工事である。米国経済の冷え込み傾向とドナルド・トランプ大統領の前代未聞の経済政策にかかわらず、フェロビアル社は太平洋を超えて成長し続けている。

オーストラリア 2025年5月19日 Roads & Infrastructure

■ オーガスタ・ハイウェイの一区間が開通

Augusta Highway section now open

南オーストラリア、ポート・ウェイクフィールド～ロッキエイ間にあるオーガスタ・ハイウェイの新しい2車線北行き区間が完成した。この1億8,500万ドルのプロジェクトは連邦・南オーストラリア州政府により共同出資されており、大幅に交通流を改善して渋滞を緩和し、安全性と輸送効率を改善すると言われている。工事には以下の内容が含まれていた：ポート・ウェイクフィールド～ロッキエイ間のオーガスタ・ハイウェイの二重化、ロッキエイ～レッドヒル間の2本の追い越し車線、ホロックス・パス・ロードとオーガスタ・ハイウェイの少し南の追い越し車線、ジャンクション改修、路肩シーリング、舗道復旧。

ドイツ 2025年5月19日 Electric Vehicle Charging & Infrastructure

■ ヴィンチ・コンセッションズ社がドイツのネットワークで初の電気自動車充電拠点を開設

Vinci Concessions opens first EV charging hub on German network

ヴィンチ・コンセッションズ社は、ドイツのDeutschlandnetz国家充電ネットワークにおいて、同社初の電気自動車充電所を開設した。ニーダーザクセン州、ゲオルクスマリーンヒュッテに位置するこの充電拠点は、同社が電気自動車充電インフラ子会社エリソを通してDeutschlandnetzネットワークへのドイツ連邦デジタル・交通省の入札において、12年契約が授与された計110カ所のうち最初の拠点である。エリソ社は北、東、中央ドイツの110カ所で電気自動車用急速充電スタンド824基の設置、運用に責任を有することになる。

ドイツ 2025年5月20日 Highways News

■ 工事現場警告によりドイツの道路が安全に

German highways safer thanks to construction site warnings

カプシュ・トラフィックコム社とアウトバーン社は、協調型高度道路交通システムを用い高速道路の安全性を高める計画の第一段階を完了した。カプシュ社およびその他供給業者の計1,000基の高度道路交通システム路側ステーションが移動式バリアパネル上に設置され、ここ数カ月間運用してきた。この装置は、接近した車両に対し、工事区域に近づいていることを示す警告メッセージを与える。これにより運転者がいち早く工事現場に気を配ることで、危険区域での事故の可能性を減らすことができる。カプシュ社の道路工事警告システムは、ドイツの道路13,000kmのうち8,600kmで使用されている。

インド 2025年5月21日 Electric Vehicle Charging & Infrastructure

■ タタev社がインドで10基のEVメガチャージャーを開設

Tata.ev rolls out 10 EV MegaChargers in India

電気自動車製造会社のタタev社は、インドで同社初めての10基のタタevメガチャージャーを開設した。チャージゾーン社とスタティック社の協力により、これらの急速充電器の立ち上げは、利用可能な充電スタンドの数を2027年までに40万基まで倍増させインドのeモビリティーを強化する、というタタev社の公約に従うものとなる。発表によると同社はシームレスな長距離モビリティーを確かなものとするため「開かれた協力」枠組みを通じ、さまざまな充電スタンド事業者や石油マーケティング企業と提携を結び、特に公道沿いの主要地点で充電インフラを大幅に拡大している。

イタリア 2025年5月21日 AUTOSTRADE

■ アウトストラーデ・イタリア社：自動運転とAI（人工知能）によって、「ダイナミック・スピード・リミット」の試験を実施、高速道路上の移動様式が変わる

AUTOSTRADE PER L'ITALIA. GUIDA AUTONOMA E INTELLIGENZA ARTIFICIALE RIVOLUZIONANO IL VIAGGIO IN AUTOSTRADA CON LA SPERIMENTAZIONE DEL "DYNAMIC SPEED LIMIT"

Movyon社が開発したシステムにより、交通状態を改善する目的で、通行時の制限速度を変化させて、調整す

ることが可能になる。これにより、高速道路利用時間とそれに伴う CO<sub>2</sub> の排出量を 15%まで削減することができる。アウトストラーデ・イタリア社は「ダイナミック・スピード・リミット」の機能性について試験した。これはイタリアでは初の試みで、ナポリ環状道路において理想的な走行速度を運転者に提案するサービスである。実にスマート・モビリティの新たな展開を予見させてくれる。

米国 2025 年 5 月 22 日 Roads&Bridges

### ■ カリフォルニアが幹線道路の安全性のため 17 億ドルを配分

California Allocates \$1.7 Billion for Highway Safety

カリフォルニア州交通委員会は、州の幹線道路システムで安全性を高め、流動性を改善し、気候レジリエンスを強化するためインフラプロジェクトに約 17 億ドルの支出を認可した。資金提供は州知事の構想「より多く、より迅速に建てよう 一みんなのために」に沿ったものであり、持続可能性とアクセス性に重点を置いた同州インフラの最新化が模索される。この配分には南カリフォルニアの山火事、嵐で損傷した道路や交通インフラへの応急修理費 8,650 万ドルが含まれる。主要計画には一例として、自転車・歩行者のための改善を含む州間高速道路 805 号線を復旧させるための約 2 億ドルが含まれている。

英国 2025 年 5 月 27 日 Highways Magazine

### ■ National Highways のネットゼロ目標を支援する新たなバイオ炭試験

New biochar trial to help National Highways with Net Zero goals

National Highways は、バイオ炭（高温で有機物を燃やしてできた炭のような物質）がいかに「大きな炭素削減」に利用できるかを調べる試験に資金を提供している。この英国初の試験はグロスター・シャー州の A417 号線ミッシングリンク計画でキール社とターアフィックス社により実施されたが、同計画で除去された植物から熱分解を通じ生成されたバイオ炭を確認している。現場で 5 トンのバイオ炭が生成されたが、これは 13 トンの CO<sub>2</sub> を削減することになる。試験の次の段階では、修景、緑の橋、マイクロプラスチックのために使用されるバイオ炭が確認されることになる。

米国 2025 年 5 月 30 日 ITS International

### ■ インドラ、アウディ、クアルコムが料金徴収 C-V2X で協力

Indra, Audi & Qualcomm collaborate on tolling C-V2X

インドラ、アウディ・オブ・アメリカ、クアルコム・テクノロジーズの各社は、通行料徴収のためセルラー・ビーケル・ツー・エブリシング（C-V2X）技術を利用すべく共同事業を立ち上げた。狙いはいかに「C-V2X 双方向接続を備えた車両が有料道路で渋滞を緩和し、全国的に支払いを共通化し、ドライバーエクスペリエンスを向上することができるか」を強調することである。インドラ社のリピオ氏は「車がいずれ運転者の財布となり、通行料、走行距離ベースの道路使用、駐車、ドライブスルー、消費者サービス等あらゆるもののが支払いに使用されることはわかつっていた」と述べている。

ドイツ 2025 年 5 月 30 日 Münchener Merku

### ■ Google マップで大混乱：バイエルン州でも通行止め誤情報

Chaos bei Google Maps: Angeblich zig Sperrungen auch in Bayern

オンラインニュースサイト Merkur.de によると、5月末、Google マップの最新交通情報に混乱が生じた。同月 29 日、Google マップ上ではバイエルン州を含むドイツ全土の道路に多数の通行止め標識が表示された。しかし ADAC（ドイツ自動車連盟）交通情報や BR（バイエルン放送）のインタラクティブ交通マップ等、多くの人が利用する他サイトを参照すると、工事や事故による渋滞等交通への影響はいくつか確認されたものの、Google マップに表示されていたレベルの大混乱はないらしいことが判明した。同社のスポーツマンによると、このトラブルの原因は現在社内調査中。Google マップ上の情報には、第三者ベンダー、公的機関やユーザー等、多様なソースからの情報が含まれるという。